

高山ダム 国道163号線の冠水を回避

淀川水系名張川の水資源機構が管理する高山ダム流域では、台風11号に伴い、総雨量が276mm観測し、ダムに流れ込む水の量も最大で毎秒1,565立方メートルを記録しました。また、ダムに7,688千立方メートルを貯留しました。

この洪水に対して、高山ダムでは、ダム下流で国道163号線が冠水する恐れがあったため、通常の防災操作以上に貯留する操作を実施し、ダム下流の木津川にある有市水位観測所において、河川水位を最大約0.4m低減、国道163号線の冠水を回避することができました。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的にため込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。

平成26年8月12日

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所
独立行政法人 水資源機構 木津川ダム総合管理所

発表記者クラブ

学研都市記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 木津川ダム総合管理所 副所長 ささきまさお 佐々木正夫

住 所：三重県名張市下比奈知2811-2

電 話：0595(64)8961(代表)

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所 副所長 しんかわりょうじ 新川良治

住 所：大阪府枚方市山田池北町10番1号

電 話：072(856)3131(代表)

高山ダムは、下流の木津川の有市地点の水位を約0.4m低減し、国道163号線の冠水を回避させました。

台風11号の接近により、8月9日（土）4時頃より降り始めた降雨は、淀川水系名張川の高山ダム上流域では、8月9日（土）12時から13時の1時間の雨量が最大36mmを記録し、総雨量は276mmに達しました。また、ダムへの最大流入量は毎秒1,565立方メートルを記録し、ダムに7,688千立方メートルを貯留しました。

今回の防災操作の概要

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が最大 となった時刻	同時刻におけるダム への流入量	同時刻におけるダム 流下量	ダムに貯留した量
高山 ダム	276mm	平成26年8月9日 16時30分	毎秒1,565 ^{m³/s}	毎秒1,199 ^{m³/s}	毎秒366 ^{m³/s}

高山ダムにおける管理開始以降の最大出水記録

	記録年月日（原因）	総雨量	最大流入量
高山ダム	S57.8.1（台風10号）	471mm	毎秒2,765 ^{m³/s}

今回の防災操作では、ダム下流で国道163号線が冠水する恐れがあったため、ダム下流河川の状況、木津川本川の状況、ダムの貯水容量、今後の降雨等を考慮し、淀川ダム統管理事務所長の指示により、木津川本川上流の島ヶ原水位観測所の水位流量を確認しながら、通常の防災操作以上に貯留する操作を実施し、ダム流下量を減らす操作を実施しました。

この結果、ダム下流の有市水位観測所付近では、この防災操作によりダムが無い場合に比べて河川水位を最大約0.4m低減（推定）し、国道163号線の冠水を防ぎ、長時間に及ぶ通行止めを回避したと想定されます。

高山ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダム効果発現に努めて参ります。

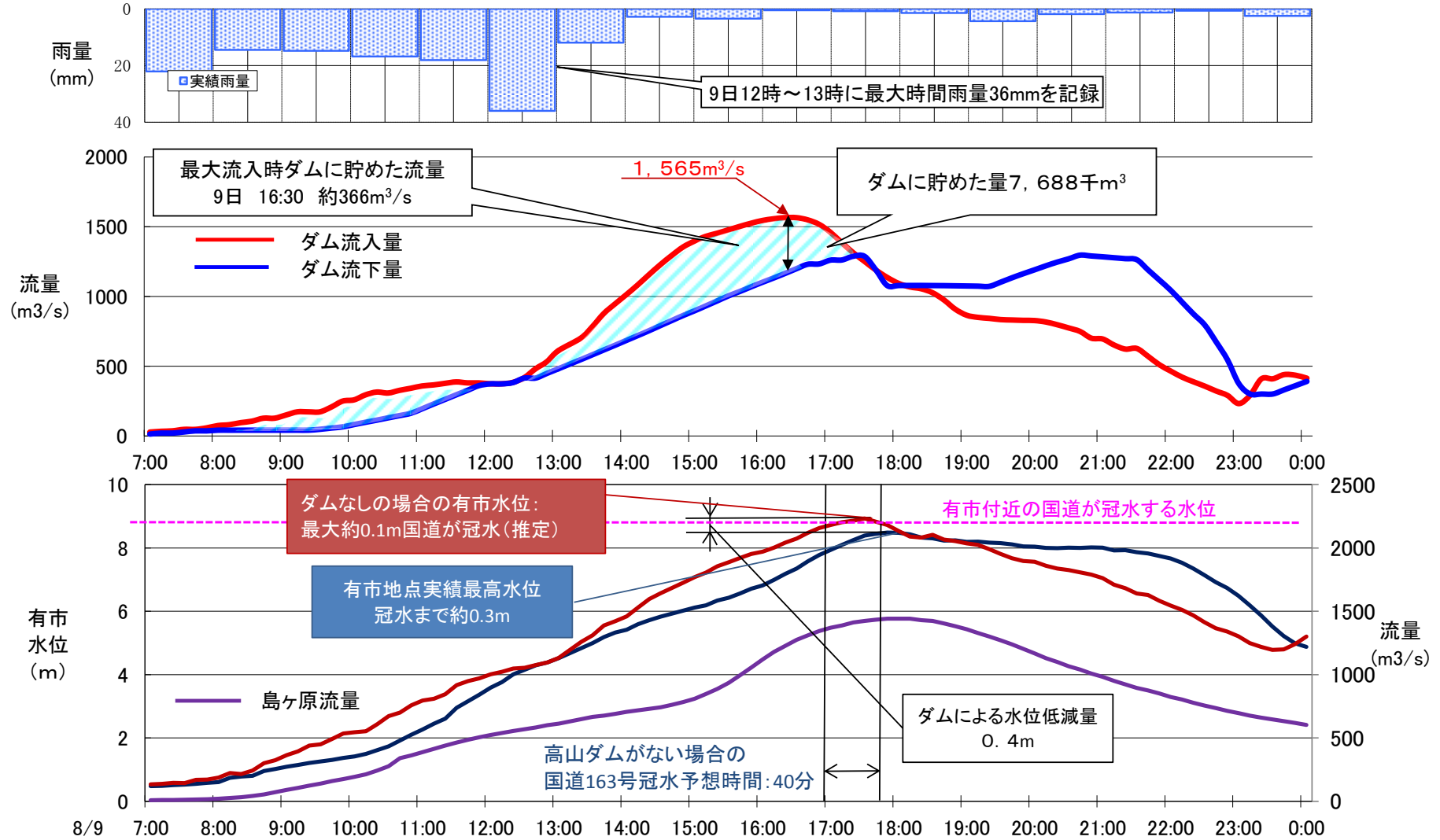
高山ダム下流位置図



淀川流域平面図

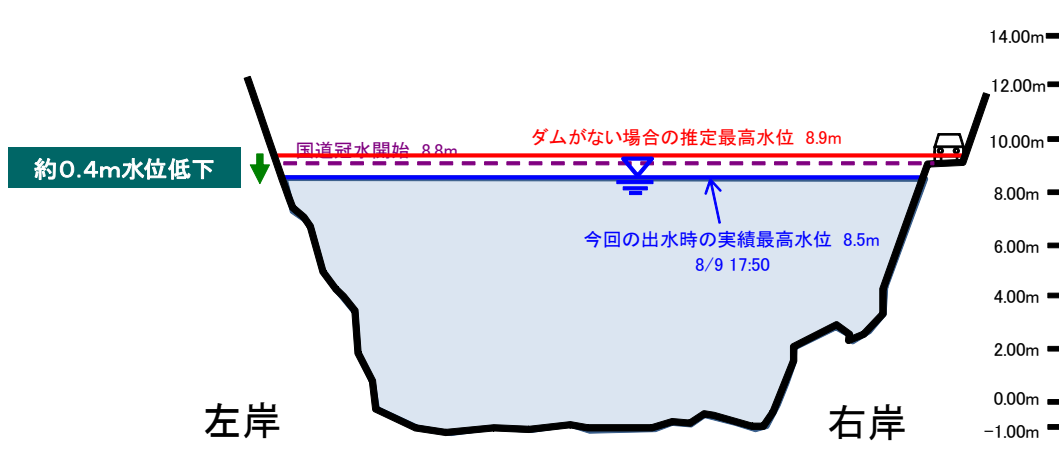


高山ダム操作概要図



高山ダム下流河川の状況

最小流下能力地点の有市地点(木津川39.8km地点)の水位低下効果



ダムにより最大約0.4mの水位低減効果があり、国道163号線の冠水を回避できたと推定されます。



高山ダム貯水位の状況

